

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390700029		
法人名	特定非営利活動法人ファミリーサポートおひさま		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	岩手県久慈市栄町32地割37番地9		
自己評価作成日	平成25年8月18日	評価結果市町村受理日	平成26年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0390700029-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町三丁目19番地1号
訪問調査日	平成25年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地元の食材を使った旬な食事を提供し、みんなの笑顔で利用者様が安心して暮らしと元気を手に入れることが出来る施設</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>日々の生活の中で、利用者に対して制限をくわえない取り組みが当たり前に行われている。その裏には職員の気配りや目配りに抜かりがなく、独自の「24時間生活シート」の活用がいきている。利用者の笑顔がいつでも、職員も明るく生き生きと働いているのが印象的だった。昼食は職員も同じ物を同じテーブルでとり、ほぼ全員完食であった。また、隣に小規模多機能型事業所とデイサービスがあり、3サービスの協力体制が図れている。また、地域との関係性も良好で、近隣の中学校からのボランティア受け入れや、楽器演奏を事業所内で行っていただくなど、活発に行っているほか、町内会長や民生委員の皆さんの積極的な関わりを大切にしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	初期研修での理念呈示と共有、職員誰でも目に付くよう事務室に掲示し、いつでも理念を確認出来るようにしています。事例検討時、ミーティング時理念を意識したケアとなるよう話し合いをします。	「心」を理念に掲げ、常にケアの原点と考えて立ち戻るところとし、理念を大切に考えて共有している。一つひとつの場面においても「そこに心はあるか」ということを問うており、本人本位目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域店舗への買い物、なじみの理髪店の利用、お祭り、盆踊り、花火大会観覧等のイベント参加を積極的にすすめています。また中学生との交流(施設訪問、ボランティア等)や地域団体の施設訪問でできるだけ交流できるようにしています。	近隣の中学校との交流が盛んである。ボランティア活動の受け入れ、吹奏楽部の演奏等を行っている。朝には通学している子ども達の通学路で声掛け、挨拶をしている。婦人会や町内会の方々も好意的で地元の祭りでは、見学・参加し、楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で出席された町内会長、民生委員の方々に入居されている利用者様の現在の状況、症状をお伝えし認知症の方への理解を深めていただくよう取り組んでおります。また各団体の施設訪問時等地域の方が抱えている介護の悩みや、認知症の方への関わりについて話す時間を持っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況を報告、アンケート結果の開示、報告をし意見をいただきサービス向上できるよう取り組んでいる。(職員名札の件、災害時訓練)	会議へは、利用者・家族・町内会長・民生委員・行政、事業所の代表が参加している。それぞれの立場の方々からの意見や提案、助言も多く、事業所運営に協力的に関わって下さっている。夜間想定避難訓練の地域住民参加や、大雨の時にはその対策等について積極的に意見交換等がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ参加いただいています。利用者様の現在の状況を伝え、適切な支援が受けられるよう、相談しアドバイスをいただいている。	地域包括によるケア会議への定期的な参加、また地域の医療とも連携がなされてきており、それら会議等の際には参加し意見交換をしている。事業所内の個別な案件にも市や地域包括支援センターが長期的に関わるなど日ごろから連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、職員がいつでも閲覧できるようにしています。夜間を除き施錠はしておりません。	法人関連事業所と独自のマニュアルを作成し閲覧できるようにしている。また、外部の研修会へ参加した職員の資料等についても職員皆で回覧することとし、情報の共有を図っている。職員皆が「身体拘束しない」ことの意識付けがなされている。	マニュアルの活用や見直し等、活きた手引書となるよう折に触れ、職員皆で読み合わせることが大切と思われる。また外部研修時の資料等を基に研修参加職員が講師となり勉強会をするなど、職員教育効果も踏まえ、改めて身体拘束の排除等について考える機会を持つことを望みたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念に基づいたケアにより、虐待はあり得ないが、虐待防止に努めていきたいと思っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護研修会への参加 利用者様の成年後見人との面談の中でこれからの支援について話し合っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、サービス開始時、十分な説明を行い納得が得られるように努めているが、疑問や不安が生じた場合、いつでもご相談くださるよう利用者様、家族様にお話しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会やアンケート等を実施しご意見をいただいています。(職員名札の件)	昨年度からの目標として取り組んでいた「会報」の作成に取り組み、月1回発行を目標に6月から発行している。家族からは利用者の新たな一面がみられるとことで好評である。家族会も年に1回は開催し、利用者にも家族にも喜ばれることを積極的に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一度施設長より、職員一人一人の面接を行っています。	職員が忌憚なく言い合える環境作りに努めている様子が窺える。互いのコミュニケーションを図り、何でも言い合える関係づくりを目指し、管理者も職員が安心してケアにあたり、働くことが出来るよう努めている。日常的な利用者に対する気づきなど、すぐに共有し、安全で快適に過ごせるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は入社時、一律ではあるが、経歴、勤務状況、資格により賃金を引き上げている。各自の能力に合わせた研修等の受講費用、旅費等補助しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に合わせた外部研修会への参加、事例を基にした施設内研修にてスキルアップできるような研修会参加の機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会からの勉強会や交換研修にて交流する機会を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時の面談や契約時のアセスメントでご本人様の声を聴くように心掛けています、面談は管理者が行い入所してから同じ顔が見え、なじめるように取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の面談や契約時アセスメント時なるべく多くのことをお話いただく為に時間をかけこれからのケアにつなげられるよう心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時の聞き取りにより必要な支援を多機能に対応していきたいと考えて取り組んでいます。通院付添介助、お隣のデイサービスへの参加等対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般にわたる家事を一緒に行えるように声掛けと雰囲気づくりに努めています。一緒にお話する時間を多くとり居心地の良い場所になってもらえるよう自分の身に置き換えて声掛けや対応をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	心身の状況の変化をその都度お伝えし、不穏時の対応を家族様と一緒に考えながらできるだけ関わりを持っていただけるようにしています。ご利用者様の作った千羽鶴を遠方の家族様へ手紙を添えて送りました。また、通信で様子をお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ひとりひとりの生活歴に合わせた支援をしています。お参りしていた神社や働いていた場所へのお出かけ、お友達が訪ねてきやすい雰囲気づくりに心がけています。	馴染みの神社へお参り、廃棄物処分場で働いていた職歴の方の道案内で処理場にゴミを出しに行ったり、ドライブがてら馴染みの場所を通るなど、これまでの生活歴に触れるよう支援している。また、利用者の友人に声掛けして事業所にも気軽に遊びに来てもらえるような取り組みも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者様の人となりの理解を深め、軽作業やレクリエーションで利用者様同士の距離を縮められるよう働きかけています。お散歩や軽体操を誘いあい励ましながら参加しておられます。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了となった利用者様の家族様が来所され他施設でお元気にされていることを伝えてくださったりしました。相談は現在届いておりません。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしを続けているうちに希望や意向の把握に努めています。趣味や散歩等一人一人の生活のペースがつかめるよう心がけています。	利用者個々とコミュニケーションを図るため、非常に対話を大切に考えている。スタッフそれぞれが利用者とは必ず話を話をするようにしているが、対話の少ない日には不穏になることなどをセンター方式(24時間シート)を活用して思いの汲み取りに努めている。職員は利用者の残存能力を大事にし、手を出しすぎないことにも配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日の談話や家族様のお話から情報を収集し利用者様が自信と楽しみを持った生活ができるよう職員が情報を共有しサービスにつなげています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に記録しており現状の把握ができるようにしています。変化のある方は24時間生活変化シートで利用者様の状態の把握とそれについてのケアの方向性を話し合い、職員が共通した認識で関わるようにしています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書を作成するうえで本人様のアセスメントと家族様の思いをふまえながら現在の心身の変化が見えるような現状に即した介護計画書を作成しています。	介護計画は、半年ごとの更新や見直しを基本としているが、必要に応じて行っている他、介護認定更新時などにも対応している。主治医や看護師の助言や意見も取り入れている利用者もいる。心身の変化にも合わせ、暮らしやすいように、より本人本位のケアプランとなるよう日々の関わりや記録を行っていることが活きている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記入し、申し送りや事例検討しています。共通のケアをするために変化があれば申し送りノートやケース記録に記入し実践につなげています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の腰痛に伴い通院介助が困難になったため、職員が代わりに通院介助しその都度報告しています。買い物介助等家族様に代わり買い物しています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーへの買い物ドライブをしています。その他家族様の所属されている趣味のグループ活動の方々に施設訪問していただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康状態や心身の状態を記録し、かかりつけ医に報告し、適切な医療が受けられるように努めています。	病院への通院は基本的には家族により対応していただくこととしているが、家族の都合や遠方に在住していることもあり、事業所でも対応することも少なくない。それぞれのかかりつけ医への対応がなされている。医師とも連携がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の日々の状態を看護師と共有し利用者様が適切な受診が出来るよう家族様やかかりつけ医への報告をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、認知症のため訴えが届きにくく、具合が悪い時のサインや不安の緩和方法を家族様に伝え、病院でも安心して過ごされるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様の強い希望と意向で余命宣告を受けた利用者様の入所をうけました。常時バイタルの変化、身体状況を細かく家族様に伝えていきます。現在病状は落ち着かれています。気持ちの不安がつよい方なので穏やかに過ごして頂くようほぼマンツーマンで付き添いしています。	重度化の方の非常時の対応について模擬連絡訓練を行った。重度化や終末期の利用者家族とは、話し合いを何度も重ね、連携強化を図っている。医師・看護師とも確認し合っている。夜間は2人体制で職員の不安にも対応できるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時、急変や事故時の対応をマニュアルに沿ってイメージトレーニング、訓練しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施しました。消防署員の指導の下、地域の方の協力を得て実施しました。	運営推進会議において避難訓練時の地域の方の協力を求めたところ、地域の方も参加してくださり、実施することが出来た。夜間の手薄な時間帯を想定して行った。避難訓練の後の反省として、地域の方からは電話の掛け方の工夫について等意見が出され、次への課題も見えてきた。地域との一層の協力体制の構築が深まることに期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設理念に基づいた感謝と尊敬の心で言葉かけや支援をしています。職員が居室に入る際入らせていただく許可を得て入室しています、また外出の際は部屋に鍵を閉める等してプライバシーに配慮した対応を行っています。	人格の尊重や本人本位も含め、新たな職員には初期の新人研修教育をしっかり行うことで一人ひとりの尊重を学ぶことから始めている。また、羞恥心やプライバシーについても、さりげない声掛けや誘導で自尊心を傷つけないよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションやちょっとした行動からその方が望んでいる事がくみ取れるように気づき、声掛けをしています。好きなこと、好みの物が希望通りとなるように会話を多くもっています			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、水分補給、トイレ、入浴等は声掛けさせていただくが、就寝は自由となっています、日中の散歩もその方に合わせて対応しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容、髭剃り介助(剃り残し介助)、衣類の交換機替え時(お出かけ)本人様と相談しながら選択いただいています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬な地元の食材を使い、体調や病状に合わせた味付けや形態で提供しています、調理する前に食材に見て触れたり、食事が楽しみになれるように働きかけています。職員と利用者様と台所に立ち準備や片づけをしています。	食事は地元の旬の食材をふんだんに使い作っている。食事のための下準備(もやしの芽取り等)も利用者と共にっており、それぞれが役割と感じて行っている。中庭で畑をやっており、今年のかぼちゃを植えた。収穫したものを食べるのも楽しみの一つとなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考慮し、一人一人の病状に配慮したうえで、盛り付けの差が出ないように工夫しています。水分補給が十分なされるよう職員が摂取量の情報を共有し声掛けを行っております。夜間もお茶の提供をしています。摂取量が少ない時はどのようにしたら摂取していただけるかを考え支援しております。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは風邪やその他の疾患の予防になるため、そのことをお伝えし口腔衛生に取り組んでいます。介助が必要な方には義歯洗浄のお手伝いしています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、検討しています。認知症の進行によりリハビリパンツに移した方もおられますが、出来る限りトイレでの排泄がスムーズに行えるように取り組んでいます。	個々の排泄パターンにより声掛けしてトイレへの誘導を行っている。水分をあまり摂りたがらない方へは起掛けすぐにコップ1杯の水を差出し水分補給を行うなど、それぞれに合った方法で対応している。夜間等自身で起きてトイレに行かれる。ポータブル使用の方はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や、消化の良い食材の提供、朝起きての水分補給、運動不足にならないように個々のペースに合わせて取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別に入浴したい時間帯をお聞きしています。節句等の行事には曜日にかかわらず入浴していただいています。	入浴の仕方もそれぞれ希望があり、対応するようにしている。一番風呂が好きな方へは出来る限り対応している。入りたがらない方へは声掛けも工夫をし清潔保持に努めている。月・水・金を基本としているがそのほかでも希望により入浴可となっている。季節のしょうぶ湯、ゆず湯も行っている。また、大みそかも入浴日とし新しい年をさっぱりと迎えてもらうようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	シーツ交換や布団干し等で清潔な気持ちの良い環境で眠っていただけるよう支援しています。眠れない時には利用者様一人一人の状況に応じた支援をするようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のお薬情報を確認できるようファイルにしています。症状の変化により看護師と相談の上、主治医に報告しお薬の管理をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業をしていただいたり、ご本人様が自発的に作業を行うことで役割をもつていただいております。一緒に南瓜を植えたり草取りをしたり、趣味のことをされたり、利用者様の笑顔になる支援に取り組んでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	久慈秋祭りでは地域の方が観覧場所を提供してくださったり、季節のドライブ(初日の出、お花見、紅葉)、お墓参り等家族様に協力いただきながら支援しています。	日常的な散歩は、気候と天気によければ、しょっちゅう出かけている。行事的な外出は、久慈祭りの観覧や、季節のドライブへも行っているほか、利用者が「帰宅したい」と言えば行くことが出来るような体制作りをしていることが利用者へ安心をもたらしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	いつでも買い物ができる様、お金が使えるようにお小遣いをお預かりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話の使用をいただいています。家族様への贈り物やお手紙を送る際のお手伝いもしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様のちぎり絵やホールや玄関に季節の花を飾り生活感のある空間を提供しています。また毎日の清掃に気を配り清潔で快適に暮らしていた抱けるよう支援しています。	共用空間づくりで心がけていることは、利用者それぞれに好きな場所にいてもらうように配慮していること、職員は、必ず利用者へは声をかけて対話をもつこと、季節の野菜や花を利用者の見えるところにおくことと等である。「関わり」と「四季の移り変わり」をポイントとしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別のお部屋で一人になりリラックスされたり、気の合うお仲間が訪ねてお部屋でお話しされたりして過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には各利用者様の馴染みのものをお持ちいただくよう声掛けをしています。	使い慣れた馴染みのものを持ってきていただけるよう、ご家族にも働きかけている。ソファ、自分の湯飲み(鑑賞用として居室に置いている。)、表彰状、家族の写真、自身で作った作品を飾ったりしている。どの部屋も採光もよく明るく清潔感が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレと洗面所は車いす対応となっています。手すり等で自立的な可動を可能としている、安全な移動ができるため常に見守りの体制でいられるように壁のくりぬきやオープンな空間での見守り援助をしています。		